

2021（令和3）年度
相談支援センターあんず 事業報告書

はじめに

利用者の方々の体調変化、障害の重度化、ご家族のご高齢化に伴う介護力低下等に加え、新型コロナウイルス感染症拡大という社会問題も影響し、ご利用者の各ご家庭における現状、及び、将来への不安は依然として感じられた。現在ご利用の方々それぞれに今出来る事をしっかりご認識頂きながら、より自立した生活に繋げて行くにはどうすればよいか、そのためにご家族にどのような支援を頑張ってもらえるか、またその頑張りを福祉サービスでどのように援護出来るか等について考えた。

相談支援センターあんずのご利用者の方々の殆どは「あんずの家」の生活介護サービスご利用者である事から、ご本人、及び、ご家族の状況変化等については速やかな適時対応がとれていたのではないかと感じた。また、「あんずの家」をご利用になっておられない外部の方々については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、モニタリング調査、サービス担当者会議とも電話による対応をとらせて頂き（→但し、重要事項のためどうしても関係者の招集が必要なケースに限り、サービス担当者会議を開催）、定期モニタリングから得た情報の他、関係方面から頂いたご報告等を基に、現状のサービス支給量範囲内での調整（→サービス提供事業者の選定、変更、交渉等）やサービスご利用に関するご説明を行いながら、適時問題の解決に繋がった。

ところで、前述したご家族のご高齢化に伴う介護不安についてはもちろんの事、ご利用者ご自身のいわゆる「65歳問題」等も頻りに話題にのぼる状況にある。ご利用者本人の障害が高齢化等の影響で更に重度化し、且つ、介護する保護者の方々ご自身も後期高齢者となっている現実を鑑み、障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する事がご本人の障害状況に照らした時に果たして妥当であるのか、いつご家族の元を離れ施設等に生活ステージを移すのがベターなのか等、ご本人、ご家族のお気持ちをしっかりと傾聴しながら、より良い方向付け・解決に繋がれたらと思う。

今後も、前述してきた様なご利用者を取り巻く状況の変化に適時対応しながら、より将来的な生活をイメージ出来る様なサービス利用計画作成が求められる事と思う。ご本人、ご家族、その他支援に関わる関係各方面からの情報をしっかりと把握し、それを基にご利用者個々により適したサービス等利用の構成を目指したい。また併行して相談支援事業所連絡会ブロック会議、関連する研修会への参加等を通じ、相談支援専門員としてのスキルアップにも目を向けたい。

1. 実施件数

▶サービス等利用計画	16件
▶モニタリング及び評価	55件
▶サービス提供時モニタリング加算	51件

▶日常生活に関する相談

- ・認定されている区分に基づき支給可能なサービス量の範囲での計画変更についての対応（→ 行政、該当するサービス提供事業者）や更新手続きについての支援、利用計画の作成に関する相談に対応。
- ・サービスのご利用方法、手続きの進め方等の相談に関し、電話等にて対応。

2. 事業推進のための連携

福山市総合支援協議会相談支援連絡協議会に所属し、事例検討、情報交換等に努めた。